

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274100524		
法人名	寿康会		
事業所名	グループホーム高松		
所在地	静岡市駿河区高松2625		
自己評価作成日	平成29年7月10日	評価結果市町村受理日	平成29年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/2274100524/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年8月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のニーズの変化、職員間の思いのすれ違いなどが重なり、ホーム全体の活気がなくなり、笑い声が減ってしまった。本部の力を借りながら、何度も話し合い重ねて、職員間の思いの違いや、日課の見直し、関わり方など、細かなところまで確認した。その中で、なかなか解決できないことや、職員が病気で倒れ、勤務が厳しくなる等、突発的なことも起きた。1年間かけて、苦しみながら、新しいホームを目指してきた。新しいスタッフの指導、入居者が楽しめる日課、レク、役割の分担等、出来ることから、解決していくことで、外出の機会や、楽しみが徐々に増えた。マンネリ化していた日常に、新しい風を吹き込んで、次のステップを踏めた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海沿いの閑静な住宅地に建つ事業所ですが、開設から27年となる障がい者の通所施設が併設され、人の賑わいが常にあります。管理者が看護師資格をもち、中心となって「点滴、痰吸引程度ならなんとか乗り切れる」として、重度化した人も受け入れることができます。また、投薬の調整も携わった症例数を以て長けていて精神病院からの受入も重なり、居宅介護支援事業所や病院からの信頼を得ていることが覗えます。開設から14年、看取りのプロのごとく十数名の利用者を見送ってきて事業所の底力を培い、本年職員の憤懣がぶつかりあった小さな反乱も乗り切り、一つひとつの実を結んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者のニーズの変化に、スタッフの思いが一致せず、結果的には理念を理解していたが、実践面の弱さが出た。何度も話し合いをすることで、より深まった。	事業所理念、個人目標を掲示して意識継続を図るほか、職員会議で課題点を出し合って改善を進めています。グループホーム方針も立案して、少しずつ取組みも深みを増すとともに、職員意見も増えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	元気な方も増えたため、地域の行事には、職員とともに参加するようにしている。	開設から27年となる障がい者施設と共に夏まつりを毎年続けています。本年は「昔遊びに来た子が大人になり結婚して、子どもを連れてきて」世代が一周、特に感慨深い日となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	充分ではないが、地域からの相談は受けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月1回の地域交流を柱にして、様子を知らせたり、問題があれば、相談したりしながら、交流をさらに深めている。	「地域密着の運営推進会議は地域交流」を旨として、毎月のカラオケに付帯させる形式で開催され、熱意ある自治会長が核となり地域に溶け込んだ事業として昇華しています。	地域交流が盛んなことは評価に値しますが、平均介護度やインシデント報告等の時間も加えることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 2017/8/17	生活保護の方が半分以上となり、入居の相談も生活保護の方が多い。月1回の面会などを通して必要なことは伝えるようにしている。	生活保護者が多くいるため、担当部署以外の生活支援課にも毎月出向いています。介護相談員も同じ人がずっと来てくれ、利用者も馴染んで不満も打ち明けることができ、安寧につながっています。	地域包括支援センター、市役所に運営推進会議の案内、議事録を送付することを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。出来る方は自由に出入りしている。	玄関施錠はなく、エレベーターも本人本位で自由に行き来しています。身体拘束については「安全のためにやる」といっても書面作業が負担となることもあって、「できる限りしない」として、本部も「しない」方策と一緒に考え、アイデア等に協力してもらっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	体の変化を入浴時に観察しながら、防止に努めている。虐待はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用するケースが増えているため、活用は出来ていると思う。今後も増えていくと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に要望は聞いている。また、個々の入居者に対してはその都度要望を聞いて、叶えられるようにしている。	これまでは費用の不満が家族から挙がることがありましたが、「お金が使えないと大抵手間が何倍もかかる」という難儀も少しずつ解決して事業所の姿勢を見せていくことで、家族の不平も減っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議の中で、問題点やケアの方法など話し合っている。職員間の思いのすれ違いが、利用者の生活に反映されることを実感している。	職員の憤懣が蔓延する、ちょっとした事件はあったものの、雨降って地固まるごとく、毎月の職員会議では意見が前向きになり、発言のボリュームも増加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部の施設長と連携しながら、環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は経験の長い方が退職したこともあり、新しいスタッフの指導や、実践者研修など出来ていると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長の病気に等より、他のホームとの連携が十分に出来なかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には家族の意向や、本人の思いは聞くようにしている。また、体調の大きな変化や、生活上の問題が大きくなったときには家族との連携を考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	身寄りのいない方が多いため、家族の思いは繁榮しづらいが、要望は聞いていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経済的に厳しい方が多いため、出来るだけお金がかからないように、日々の生活を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす時間が多いため、関係は築けている。一人で過ごすことを希望する方が多いので、逆にあまり干渉しないように気を付けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に定期的に来られている家族に関しては、誕生日を祝うなど、一緒に過ごせる場面を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢となり、現在のつながりを大切にしている。	生活保護者が大半で家族との縁が薄いため、入居前の人間関係が続く人はほとんどいません。1名、海外に住む家族に会えることを楽しみにする人には職員も想いを同じくしていることをメッセージ掲示で視認しました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋で過ごすことを希望する方も多いため、部屋の環境を整えて過ごしやすいようにしている。また、職員を助けてくれる方もいるため、一緒に仕事をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまでしているため、その後のかわり方は少ない。身寄りがない方が多いため、逆に、最後は寂しい別れになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いがすべて叶えられるとは思っていないが、最近、外出が増えて、より希望に添えている。	利用者も慣れてくると職員に気持ちを吐露してくれ、例えば「掛川花鳥園にハシビロコウという珍鳥がきた」との情報をテレビ放映で得て「行きたい、行きたい」となった例では、休日返上の職員尽力もあって実現させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それまでの生活は、本人からの話に頼ることが多く、十分に把握できていない。認知症が進行して、問題が起きた時に、以前の暮らしが知りたいと思うことがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の変化をしっかりと見ること、現状の把握や、問題点などは、共有出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1回のモニタリングを柱にして、問題点は早期に解決しながら、より良い介護計画を作成している。特に健康面には力を入れている。	計画作成担当者と介護支援専門員が同一人でヒヤリングや指示など一元化され、職員も忠実に実行でき、また担当を数名のチーム制にしているが無理なくチームケアが成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を大切にしながら、必要なことは連絡ボードに記入して、連絡の見落としがないようにしている。大きな変化や、ケアの変更は特に注意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	健康面のニーズにはすぐに対応するようにしている。また、生活の中での問題は、その日の勤務者で対応できるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか活用できるまではいっていないが、町内会長との連携が来れているので、相談できることは地域交流の日に聞くようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅診療を受けられているため、ほとんどのことについては、主治医と連携しながら解決している。内科以外の病気についても、その時々で対応できている。	月2回訪問診療くださる協力医は急変時には往診くださるし、看取りにも24時間オンコールの親身な対応で、管理者である看護師との連携も堅固です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常駐しているので、情報はその時々で連絡相談できている。そのためより早い対応が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の時には家族がいない場合は、代わりに対応している。地域連携室などを通して、入院生活が困らないようにしている。出来るだけ、ホームで見たいと考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何人もの方を看取り、スタッフ間でも問題なく出来るようになってきている。看取りや終末期に関しては、その都度計画を変更しながら、出来るだけ苦痛なく過ごせることを目標にしている。	開設から14年、看取りのプロと言っても過言でない実績をもち、「団結、やりがい、達成感が得られる価値ある業務」として、職員総意で前向きに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本人や家族に急変時の対応について、希望を聞くようにしている。急変時は、看護師に連絡して、支持を得るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や防災計画を通して、災害時は避難できるように訓練している。津波の心配が一番大きい、その時の対応は難しい。	併設事業所と合同で年2回実施の訓練には消防署職員の立ち合いもあり、ミキサー食も含む備蓄では試食会による入れ替えも定期におこなっています。津波対策はアレコレ思案中で、移転も含み協議が続いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時として、職員の言葉で嫌な思いをすることもあるため、出来るだけ、職員全体の情報を共有するようにしている。不満があった場合には詳しく聞くようにしている。	「～ちゃん」づけはおこなわないとしており、また新採には接遇やマナーの外部研修に出てもらうようにしています。職員の想いの先走りが利用者の不満となった例では、身近な研究材料となり、知己を拓げる機会となりました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	最近希望に添えるようになってきたため、入居者の思いは、回数は少ないが叶えられていると思う。また、言いやすい関係は出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あまり強制することなく、個々のペースに合わせて生活できている。ただ、逆に、外に出ない方に対する支援が難しい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔に出来るように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下が難しくなった方には、その力にあった栄養で、また、楽しみな方には、様々なメニューで、楽しく食事出来ていると思う。	男性職員も調理に手慣れていて、ベテラン主婦ながらにご飯、汁物、主菜、副菜2品を上手に仕上げています。準備は手伝っていませんが下膳は自らおこない、また寝たきりの利用者も誤嚥なく口径摂取を続けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて食事形態で提供できている。以前は、ミキサー食も作っていたが、最近は市販のもので安全を重視している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	時に就寝前の口腔ケアはていねいに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状況に合わせて介助している。出来るだけトイレでの排泄を心がけているが、機能面で難しくなった時には無理をしない様している。	「トイレでの～」を目標にしても、「無理はしないほしい」という考えも一方ではあり、自然に任せている面もあります。それでも本人も職員もオムツよりリハビリが楽なこともあって、いつの間にか改善されているケースもあります	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服用と共に、対応は出来ている。(看護師がいるため)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に沿った対応は出来ないが、週に2回以上の入浴は実施している。体力的に難しくなったケースについては、新しいシャワーチェアへの購入や、機械浴などにより、対応できるようになった。	併設施設があることから、家庭にある一般浴槽と仰臥のまま入れるもの、座ったままの3つがあり、心身の状態変化に応じて選ぶことができます。またこの3つの設備を擁していることから十分な看取りが完遂できています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境を整えて、安心して眠れるように支援している。不眠や、興奮、転倒など事故の危険がある場合は見回りを強化している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬などが無いように、注意をして服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑などをやりたい方には、場所を提供したり、誕生日に、外食をするなど楽しみを増やせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関のカギを掛けなくなったため、自由に入り出来るようになった。遠くには行かないが、施設の敷地内で、畑や草取りをして、自分の楽しみを作っている。	暑さ、寒さが強い季節は別として、散歩や畑の手入れでの外気浴がおこなわれ、本年は利用者のリクエストでバーベキューを2回実施し、「泳ぐ象が見たい」という利用者の声から、遠路サファリパークにでかけてもいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理はホームで行っているが、欲しいものがあるときには、使える範囲内で購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方に対しては支援している。それが生活のハリになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が古いため、きれいとはいえないが、出来るだけ清潔に過ごせるように、掃除などを徹底している。居室については、こだわりもあるためなかなか思うようにできないが、1日に1度は、掃除などで入り様子を見るようにしている。	以前から課題としていた休養室の備品管理は整理が進み、見た目に大きく変化しています。造花、生花が要所に置かれ、前回にはなかった写真掲示もあり、職員の気配り、心配りの進化が伝わります。	階段の踊り場に置かれた用具や消耗品は片づけるか、または置き場所にすんなら棚の設置を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個をこのむ方が多いため、自分の居場所を作り、安心していられるように配慮している。最近はおもてがいが減っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を第一に考えて、居室は広く利用している。物は出来るだけおかない。	多様な症状をもつことから、「その人らしさ」というより「その人の病状」が色濃くでていて、中には備品庫のような雰囲気の居室も見られましたが、入口には折り紙で作った花や絵馬が飾られ、職員配慮を受けとめました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立出来ている方の暮らし、寝たきりの方の暮らし、個々に合わせて、安全に安心して生活できるような環境を提供している。		